

奈良県「いのちの教育」事業への取り組み

Nara Prefecture “Inochi Life Education Program Project

奈良県葛城保健所 係長／獣医師・藤井 敬子

Keiko FUJII,

Veterinarian / Assistant Manager at Nara Prefecture Katsuragi Health Center



○天ヶ瀬正博 次は「奈良県「いのちの教育」事業への取り組み」ということで、奈良県葛城保健所係長の藤井敬子氏から発表いただきます。藤井氏は、1988年に北里大学大学院獣医学専攻修了、1988年同年に奈良県庁入庁なさいました。1992年より保健所等で狂犬病予防及び動物愛護関連業務を担当なされ、2010年より動物愛護センター業務を経て、2012年より奈良県うだ・アニマルパーク振興室で勤務なさいました。本年、2014年より現職の奈良県葛城保健所にお勤めです。

それではお願いいたします。

○藤井敬子 皆さん、こんにちは。奈良県の藤井と申します。木下先生の立派な御発表の後に私のつたない話で大変恐縮なんですけど、おつき合いいただきたいと思えます。

先生からヒューマンエデュケーションのお話をお聞きして、すごい自信がついた部分と、ええって、ちょっと私早まったかなという部分と両方あるんですけども、奈良県が新しく始めました動物愛護教育「いのちの教育」についてお話をさせていただいて、皆さんと一緒に動物愛護教育のあり方であるとか今後であるとか、そういったことを考えるきっかけが提供できればいいなと思っております。【スライド01】

では、発表を続けます。ちょっと緊張してますので、済みません、お聞き苦しいところがあると思いますが、おつき合いください。

きょうのお話は、私たちの先ほど言いました奈良県の「いのちの教育」、これを中心にお話をしていきます。どういう経緯でその教育が生まれたのかということ、それから具体的なプログラムについてお話をさせていただこうと思っています。【スライド02】

海外からの参加者の方もいらっしゃるかなと思いますので、日本における動物にかかわる事柄について、若干の説明をまず加えさせていただこうと思います。日本には欧米で言うところのアニマルシェルターが各自治体にあります。犬猫のペット動物に関することは、日本では行政が中心になって行っています。ですから、その保護であるとか管理であるとか処分、教育はシェルターの中、動物愛護センターもしくは動物管理センターなど、

名称はいろいろですけども、そういう行政機関の中で行政が中心になって行っています。

このうだ・アニマルパークという施設は、奈良県が2008年に、動物と人との共生社会の実現を目指してオープンいたしました、いわゆるアニマルシェルターを含んだ施設になります。施設の概要なんですけど、総敷地面積はおおよそ10ヘクタールです。その中に公園部門がありまして、いろんな動物たちがいます。それから先ほど申し上げました、いわゆるシェルターという動物愛護センター、それからそういったことを学習するための動物学習館、ここではさまざまなイベントなども行っています。この3つの施設から成り立っているのがうだ・アニマルパークです。【スライド03】【スライド08】

組織です。組織はちょっと特色があります。恐らく日本における他の自治体と大きな違いが2つあると思います。順に説明させていただきます。まず、動物愛護センター、先ほどのシェルターワークをする動物愛護センターがありまして、それに付随して動物愛護教育、これから説明をさせていただきます「いのちの教育」を特化して行う動物愛護触れ合いの部署がございます。ここでは、先ほどの公園での動物の管理もしております。

そしてちょっと不思議なのがこの地域振興という部署です。動物行政と地域振興行政が一緒になって、このうだ・アニマルパーク振興室をつくっています。美しく言うと、これは、地域は人から成り立っている。人づくりは地域づくり。豊かな地域をつくるためには豊かな人が必要であるということで、ここで行います「いのちの教育」、人づくりは地域をつくるんだということで、この3つの部署を1つにしたものがうだ・アニマルパーク振興室になります。ちょっとわかりにくいかもしれませんが。また緊張が解けるともう少し詳しい説明ができるかなと思いますので、後半に期待してください、済みません。【スライド04】

もう一つの大きな特徴がここです。教員2名。恐らく日本のいわゆる動物愛護センターと言われている施設で、専属の教員を持っているのは奈良県だけではないかと思っています。欧米では当然教育のところには教育者が大体配置されてるのかなというのを見聞きしておりますけれども、日本ではまだないのかなと思います。教員

2名を擁しまして、獣医師と教員が協力してプログラムの作成や実施を行っています。【スライド 09】



うだ・アニマルパークは動物とのかかわりを入りに、あらゆる命に共感し、命を大切にする心を育むをコンセプトに、動物について学ぶ、動物から学ぶ、動物のために学ぶという役割を果たす施設として設置されました。【スライド 05】

ちょっと楽しげな写真で、このようにアニマルパークではさまざまな教育イベントを実施しています。これが後ほど説明させていただきます「いのちの教育」プログラムの様子です。野鳥の観察であるとか、これはサマースクールの写真なんですけれども、実際の飼育体験などを通して子供たちに命を学んでいただいています。【スライド 06】

いわゆる犬とのふれあい教室です、危害防止を中心にしたふれあい教室。それからこれは家庭犬との暮らしを体験してもらう教室です。そして、ちょっと見にくいんですけど、ここに子犬がいるのが見えますか。子犬の社会化を目的にした、子犬の社会化を体験してもらう教室です。子犬の保育園という名前をつけてるんですけども、子供たちに実際に体験してもらいます。【スライド 07】

それから、オリジナルのかるたをつくってるんですけども、適正な使用を学んでいただくためのオリジナルかるたをつくって、こんなかるた大会を、冬場の閑散期にはやったりもしております。

私たちうだ・アニマルパークは、この役割を果たすために3つの課題を与えられました。「いのちの教育」を実施すること、動物の処分数を減少させること、パークを拠点とした地域振興をすること、この3つの課題に取り組むことがイコール「いのちの教育」をすることの始まりでした。【スライド 10】

「いのちの教育」が生まれるに至った背景に入っていると思います。

この表は少し見にくいんですけども、奈良県の動物行政の変遷と動物愛護啓発事業の移り変わり、それと同時期の子供を取り巻く社会情勢を1枚にまとめてみました。こうやってまとめてみて気がついたんですけども、最初ずっと私はこの仕事をしている中で、それぞれが何となく独立していたように思っていたんですが、実

はちょっと横のつながりがあるのではないかなというのを感じ始めています。【スライド 11】

動物行政の変遷です。【スライド 12】

私がちょうど奈良県に入ったころは、仕事の軸足は狂犬病予防に置かれていたと思います。いわゆる捕獲処分行政でした。年間5,000頭を超える処分を実施しておりました。それから10年、その軸足は徐々に動物の愛護、管理行政へと移っていきました。そして2010年代に入ると、動物の譲渡事業が制度化されたり、引き取りの有料化が相まって、不必要な処分ゼロへ向けた取り組みが始まっていきました。

それから、子供を取り巻く社会情勢です。【スライド 13】

何回かほかのシンポジウムでもお話が出ていたのですが、1990年代に神戸で起きた痛ましい少年による事件をきっかけに、大人たち、有識者たちは、子供たちに命に対する教育が必要ではないかということも多くの人が警鐘を鳴らしました。そして、さまざまな切り口での「いのちの教育」が始まったのもこのころではなかったでしょうか。

奈良県の動物愛護啓発事業は1990年代、動物との触れ合いを目的に始まりました。それから、動物との触れ合いを体験して、そこから命の大切さを学ぶとか、危害防止、いわゆるかみつき事故防止を目的にしたふれあい教室へと変化していきました。触れ合うだけでは共感はずたないと書いてありますけれども、少し私はこのころから、このふれあい教室に対して疑問を感じ始めていました。【スライド 14】

ふれあい教室の写真です。ここに犬がいてるのがおわかりになるでしょうか、ここに。ちょっと黒い子なので表情がわかりにくいんですが、もう皆さんは恐らくお気づきだと思います。【スライド 15】

私、本当に夢中になってこの当時、ふれあい教室、犬を連れて学校に行きました。ここに子犬たちがいて、この子がぼおっと立ってるんですけども、私、この犬の表情に気づかなかったんです。夢中になっていたのは子供たちの笑顔とか、先生方がふれあい教室すばらしいですね、先生って言ってくださるその言葉に酔いしれていて、この犬たちのこの表情、このボディランゲージに全く気づいていませんでした。恥ずかしながらこれに気づいたのは随分後のことで、機会があって、海外のシェルトワーク、海外での動物愛護教育を見せていただくことができました。そのときに、私、何をしていたんだろう、今までと感じました。頭から氷水をかぶせられたような、ひゃあっという、もう本当にどうしようという気持ちになりました。

私はこれまでの動物愛護教育で間違った情報を子供たちに伝えてしまっていたんじゃないか。つまりは、動物は我慢させる対象、自分が楽しむため、自分がいい気持ちになるためには我慢させていい対象なんだよとか、動物のことは配慮しなくていいんだよとか、動物は人間

ほどの価値はないんだよということを子供たちに伝えてしまっていたんじゃないか、そういうふうに感じました。

先ほどの写真、あれ、実は15年前の写真です。奈良県では今、動物を伴ってのふれあい教室は、先ほどの写真にありましたように、うだ・アニマルパークの中で、適正にトレーニングされた動物、適正のある子を選び出して行っています。子犬の使用は、先ほどの子犬の社会化での使用のみです。

これまでの動物愛護教育は、中心に置かれていたことは動物愛護、愛護という言葉は非常に曖昧です。かわいがり保護すること。日本的な、非常に情緒的な考え方だと思います。先ほどのこのお部屋であったシンポジウムでもおっしゃって先生がいらっしゃいましたけれども、日本的には命はみんな同じだよ。生きていることが重要。自然であることがすばらしいんだよという日本的な動物観。私はこれ自体を否定するものではありません。うだ・アニマルパークのコンセプトの中にもありましたように、命は大切に、それに共感することはすばらしいことだよって言ったかと思うんですけども、それ自体はいいことだと思います。日本人としてはとても受け入れやすいことだと思います。【スライド17】

でも、その中ですりすり滑り落ちていたこと、置き去りにされていたことがあったのではないのでしょうか。動物福祉という考え方です。よりよく生きるということ。非常に客観的で科学的で根拠のある動物福祉、動物の幸せというその視点がこれまでの動物愛護教育には抜けていたのではないかということに気づきました。

そこで、私たちは提案します。本当に子供たちに伝えたいことは何なんだろう。動物とのかかわり、ほかの命へ共感すること、そしてかかわる動物への責任です。命を大切にすることと行動、日本的な動物観から抜けていた、欧米で言うところの動物福祉というところ、それを一緒に、2つあわせ持った動物愛護教育ができるのではないかということ提案したいと思っています。【スライド18】

そこで、私たち奈良県「いのちの教育」は、あらゆる命に共感し、命を大切にすることを育む教育と定義づけました。狙いを3つ決めました。生命尊重の心、社会の一員としての責任感、思いやりや自尊心を養うこと、社会規範を高め、情操を豊かにすること、この3つを「いのちの教育」全体の目当てといたしました。そして、継続的な「いのちの教育」を実施することで豊かな人間性を持つ子供が育成され、その豊かな人間性を持つ子供たちはやがて善良な市民へと育てていくことを目指しました。先ほど木下先生がおっしゃいましたけれども、善良な市民を育てることはヒューマンエデュケーションである、このように定義づけました。【スライド19】【スライド20】【スライド21】【スライド22】

このプログラムの入り口は動物です。しかし、命を考え、命を感じる教育、動物に対し、他者に対して適切な行動をとれる人づくりと考えています。【スライド23】

やっここから具体的なプログラムの概要に入っていくと思います。

このようにして生まれた奈良県の「いのちの教育」は、この5つのプログラムを目指しています。1つ目は張り子のプログラム、低学年向けです。2つ目は高学年向けの張り子のプログラム。そして学習シートやワークショップのプログラム。それから、中学生へ向けたプログラム、大人に向けた生涯学習プログラム、この5つを目標にしています。残念ながらまだ完成しているのはこの小学生のプログラムと、小学生低学年、高学年とワークショップなどです。中学生のプログラムはただいま検討中で、生涯学習プログラムは未定です。私どもの上司が来ておまして、おい、そんなことを言って大丈夫かという顔をしておりますが、これは私の夢かもしれません。【スライド24】

では、次へ続けます。

小学校プログラムの概要です。キーワードは気づき、共感、責任です。先ほど大きな狙いを決めましたと言いましたが、それぞれのプログラムごとに、その学年に応じた狙いをやはり3つ決めていきます。気づき、共感、責任とプログラムは3つに構成されていて、1時間ずつ、つまり3時間を使って子供たちにそのプログラムを提供していきます。【スライド25】【スライド26】

プログラム1、私たちと動物とのかかわり。私たち人間はさまざまな動物とかかわっているんだよということに子供たちに気づいてもらうプログラムです。ちょっとわかりにくいんですが、ここに3枚のパネルがあります。これはそれぞれの環境をあらわしたパネルなんですけれども、20体のこういう張り子の動物を用意します。その動物たちをそれぞれの住んでいる場所へ、どんなふうに自分たちが動物たちとかかわっているかを考えながら並べていってねというのがこのプログラムの始まりになります。【スライド27】

並べています。町で暮らす動物、農場で暮らす動物、自然で暮らす動物、ペット、家畜、野生動物、私たちがかわる動物をちょっと乱暴ですが3つに分けて、子供たちはそのかわりを考えながら張り子を運んでいきます。たまにカラスは町にいるよって置く子供がいます。えっ、山だよ、いやいや農場にも飛んでいるよ、子供たちはさまざまな意見を言ってくれます。じゃあどれが正しいの、どんなかわりをしているのということ授業は進んでいきます。【スライド28】

大変見にくくて済みません。かわりという言葉は小学校低学年には少し難しいので、この先生が考えてくれたんですが、つながっている、人間と動物はつながっているんだよ。何でつながっているの。心でつながっている、体でつながっている、環境でつながっているということ子供たちに伝えていって、プログラム1は終わります。【スライド29】

そしてプログラム2です。命は同じ、他者への共感です。動物の気持ちやニーズをここでは考えていきます。

ちょっとこれ見やすくなりましたね。ペット、家畜、動物はつながっている、これはプログラム1の復習をした後、動物にも心があるんだよ、動物にも命があるんだよということを、こういったパネルを使ったりしながら伝えていきます。【スライド30】

そして子供たちは、動物の気持ちを自分で考えて、ホワイトボードを使うんですけども、こういったもの書き出していきます。最初は手を挙げて発表させていたんですが、実はこのホワイトボードが非常に有効でした。子供たちが自分の気持ちを素直に表現したり、全然書けない子ももちろんいるんですけども、ほかのお友達の発表を聞いて、それを書き込んでいくことが可能になりました。そうすると、クラス全体の共通な、それこそ共感ですね、あの子の意見に共感するよという形で、クラス全体が1つのまとまりとなって動物の気持ちを考えていくことができるようです。【スライド31】

こちらのスライドは違うのが写ってるのでちょうどいいんですが、生きている証拠を考えてもらいます。例えば生きている証拠、何があるでしょう。うんちが出るよ。血が出るよ。汗が出るよ。そういったことを子供たちは言っていきます。じゃあそれって君たちだけ。犬は。あっ、犬もうんちするね。猫は。あっ、猫も御飯食べるねという形で、動物も自分たちも同じ命なんだということを感じ取っていきます。【スライド32】

これ今、心臓の音を聞いているんですが、動物愛護センターにあるふれあい教室では、よく犬の心臓の音を聞いたりとかが定番になってたりするんですが、ここでは一切生の動物は出てこないんです。出てこないんですが、子供たちはさっきのうんちやおしっこや汗と同じように想像ができます。自分の心臓の音を聞いたら、きっと動物たちも心臓が動いているよねということ簡単に想像して、同じ命だということをおぼえてくれます。

そしてプログラム3です。今度は、動物のために私たちができること。人が果たす責任を考えます。ニーズに応えること、動物の福祉を担保することが私たちに課せられた責任なんだよということをおぼえていきます。【スライド33】

ただ、言葉で言ってもなかなか子供は想像ができないので、こういうそれぞれの環境のパネルを用意します。ちょっと見にくいんですが、散歩に行く前の犬の様子であるとか、すごく汚い農場にいる豚であるとか、自然が壊された状態の野生動物であるとか、そういったパネルを用意して、子供たちに自分たちができることを考えさせます。【スライド34】

私たちができることをここでも平たい言葉で、私たちと動物との約束ということで、1年生でも考えられるようにしています。この板書されている言葉は子供が発表したものをそのまま書いたんですけども、例えば散歩をしてあげるであるとか、したいことをしてあげる、心を守るという言葉が子供たちから出てきます。おいしい餌をあげるとかおいしい水をあげるとか、1

年生であってもしっかりと回答することができます。【スライド35】

野生動物についてはどうするのという、森を大切にするとか、ごみを捨てずに家に持って帰る。1年生です、一、二年生、低学年です。この表現しかできないんですが、私はそれがすばらしいと思っています。背伸びをした言葉ではなくて、自分たちが本当にできそうなこと、あすからでもすぐできることを子供たちは書いてくれるんです。このときはそれでいいんじゃないかなと思っています。動物のために自分が何かできることをその場で考えていく。おうちに帰って、いつもは知らん顔していた自分ちのポチにお水がないか確認する、そういう子供ができていたらそれで十分なのではないかなと思っています。

これは2年生が授業を受けた学校なんですけれども、2年生が、自分たちがプログラム2まで受けた後、全校集会、小さな学校です。全校集会が可能です。全校集会の中で、自分たちが学んだことを高学年のお兄さんやお姉さんに一生懸命発表して説明してくれました。その後で、学校全体で、丸々小学校の動物と僕たちとの約束を考えようということで、今度は縦割りでグループをつくって、野生動物にはこうしてあげようとか、畜産動物にはこうしてあげよう、ペットにはこうしてあげようということをおぼえてくれました。【スライド36】

このようにこのプログラムは、学校や先生によって横に広げたり深めたりということが出来る柔軟性もあるんだなということをおぼえて、私が考えたのではなく、ほかの学校の先生方が証明してくれました。

それから評価です。

実はこのプログラムに関しまして、研究協議会を立ち上げています。本日のこの会議の主催者でいらっしゃいます公益社団法人 Knots の理事長、きょうの座長でいらっしゃいます奈良女子大の天ヶ瀬先生、動物福祉協会の山口先生、奈良県の教育研究会の校長先生方、教育研究会の指導主事の先生や奈良県の動物愛護センターの所長などを構成メンバーとしております研究協議会を立ち上げて、このプログラムの検討や評価の検討を加えています。【スライド37】

その中で御議論いただきまして、できあがったのがこのプログラムです。当初は、このはい、わからない、いいだけの、小学校低学年の子がするプログラムなので、簡単なアンケートにしていたんですけども、それだと理解度しかはかれないんじゃないかなということになりまして、ちょっと言葉を書かせてみましょうということになりました。はい、いいえで理解度、適切なキーワードの出現数で共感度をはかれるんじゃないかということで、先ほどのアンケートを作成いたしました。【スライド38】

適切なキーワードは、動物にも心があるとか、動物にも命があるとか、動物もこんなことがしたいとか、自分は動物のためにこんなことができるかということキー

ワードをある程度定めまして、それがどのぐらい出てくるかを数えました。明らかなんですけども、事前と事後で数が、明らかに効果が出ていると評価をいたしました。全部で1,000人を超える小学校の生徒さんにアンケートをとりました。【スライド 39】

私たちはこのプログラムによって生命、尊重、共感力、思いやり、責任感、社会規範、自尊心などが高まり、豊かな人間性が構築されることを期待しております。

済みません。ここでちょっとだけビデオを流していでしょうか。【スライド 40】

実はこの「いのちの教育」の紹介ビデオをつくったんです。それが、実は本編が15分ほどあるんです。きょうはそんな時間がないので、1分バージョンをつくってきたので、それを見ていただこうと思います。



(ビデオ上映)

○藤井敬子　すごく短くて申しわけありません。もしよろしかったら、10分ほどだけ持ってきましたので、終わりましたらお声をかけていただきましたら、15分の全体を説明したものになってますので。

見ていただいて、ちょっと何かよくわかんなかったかもしれないんですが、このプロモーションのビデオをつくったときに、制作者が私に言ったことが、子供たちの表情をすごく大事にしたいとつくりましたと言ってくれました。子供たちが物すごく興味を持ってこのプログラムに取り組んでくれていることが伝わってくるかなと思っています。【スライド 41】

続けます。

張り子のプログラムの高学年バージョンになります。先ほどの子供たちが運んでいた40センチから50センチの張り子をちょっとミニチュア化して、これ普通の学校にあるホワイトボードと同じサイズなんですけれども、そこへ全部、環境パネルであるとかが張れるぐらいの大きさにミニチュア化しました。こうすることで、ちょっと年齢がいったって照れが出てきた高学年の子供たちも楽しく取り組んでくれるように工夫をしました。【スライド 42】

プログラムも低学年では1、2、3と3つに分けて

いたんですけども、2時間に圧縮して、プログラム1と2の半分を1時間で、残り後半を1時間でできるようにちょっと工夫をしました。

皆さん、5つの自由をこのようにマーク化をしました。そして、動物福祉という言葉であるとか、5つの自由という言葉は直接には出さないんですけども、動物たちにとって必要なもの、ニーズの話とか責任という話をするときに、ちょっとこういうのを使って基礎知識として入れる工夫をいたしました。

それから、ホワイトボードに書き出していた分なんですけれども、これも高学年向きに、今はやりのツイートというやつですね、つぶやきということで、直接書けるような学習シートへと変更しています。

ここからは小学生プログラムのツールについて紹介をさせていただきたいと思います。張り子のプログラム、「いのちの教育」の説明は終わりで、次のツールの紹介です。

子供たちが動物愛護教育に参加するときに、こういうゼッケンなんかをつけてもらって、参加者とそうでない人を差別化、差別化して、ここにはこんな絵とか、啓発にかかわる絵を全部入れてます。裏には文字があって、注射をしましょうとか登録をしましょうとか、そういったことが入っているんですけども、子供たちに関心を持ってもらうということに一番力を入れています。

学習シートも10種類用意しました。張り子のプログラムは全体的な動物愛護というか、命全体を考える教育になっているんですが、この学習シートはそれぞれのテーマを決めて学習を進めるものになっています。例えば体は人も犬も一緒だよとか、気持ちを考えようねということを1つずつテーマを決めて、10種類作成いたしました。【スライド 43】

学習シートだけではあきちゃうので、ワークショップも一緒にやっちゃいましょうということで、例えばこれでしたら学習シートのナンバー1なんですけど、名前をつけましょう、名札をつけましょうということで、いわゆる所有の明示の必要性を訴える学習シートなんですけど、じゃあ所有の明示のための名札も本当につくっちゃいましょうということで、名札づくりをセットにしました。【スライド 44】【スライド 45】

こちらは、もしあなたが丸々だったら、こんな環境下に置かれたら、うんちだらけのところに置かれたらどんな気持ちをするのって、放って置かれたらどうなのって、外にいきなり放り出された猫はどんな気持ちをするのということを考えてもらうプログラムです。これもただ考えるだけでは退屈なので、奈良県オリジナルなんですけど、こういうかぶり物というお面のようなものを、この3種類の動物ができるようなシートを作成いたしました。シートをかぶって、この子の気持ちを代弁してみようというワークショップです。【スライド 46】

これは私が、こういう動物愛護教育をやるって思ったきっかけになったR S P C Aに行ったときに、私がい

際に受けた授業なんです、いきなりごみ袋を渡されまして、この中身で動物とかかかっていることは何って聞かれたんです。ああ、すごいって思ったんです。これだったら私、日本に帰ってすぐできる、あしたでもできると思って、ごみを集めてやり始めました。後づけでシートをつくったんですけども、こんな動物との、人とのかわりを学ぶシートです。【スライド 47】

これ今、猫の飼育グッズがそろっているのがおわかりになるでしょうか。猫を飼うために必要なものを集めました。これを奈良県では猫とウサギと犬とモルモットを飼うための道具を、ホームセンターに行って全部買い込んできまして、縫いぐるみを買ってきて、これをこんなにきれいに並べるんじゃなくて、全ての動物の飼育グッズをぐじゃぐじゃに机の上に並べまして、子供たちにそれぞれの動物を決めて、この動物が幸せに暮らすために必要なものを買ってきてちょうだいと言って買いに行かせる、そんなワークショップです。準備が物すごい大変なんですけども、子供はすごく喜びます。【スライド 48】

いわゆるコスプレですよ。本物の動物は全然使っていないんですが、子供たちに白衣を着てもらって、聴診器をかけてもらって、今、これはチップの説明をしているんだと思うんですけども。私たちは動物たちにこんなケアをしているんだよということを、センターの獣医師が説明をしたりしています。

これは帝京科学大学の花園先生に大変お世話になったプログラムなんですけれども、動物介在箱庭というのを花園先生はやっておられまして、ヒトと動物の関係学会に行かせていただいたときに発表を聞かせてもらって、あっ、これもできるかもと思って御相談したらいろいろお世話をしてくださったんですが。このアクリルの箱の中でハムスターを飼ってみようというのがお題です。これもいろんな飼育グッズが置いてあって、それを子供たちが相談して、ハムスターが幸せに暮らせるようにというふうに入れていきます。

これは子供たちの会話を聞いていると非常にすごいと思うんです。ハムスターの特徴だけを最初に言うんですね、夜行性だよとか、穴を掘るのが好きだよとか、よく動くよというぐらいの情報しか与えないんですが、いっぱい遊べるように広くしてあげなきゃとか誰か叫んだりとか、寝るときはふわふわのほうがいいからここにもこのわらを引いてあげようとか、水を飲むのに届かないからはしごが要るよとか、そんなことを子供たちが言いながらやってるのを見ると、ああ、すてきねって思ってしまいます。

これはカードゲームです。先ほどちょっとお話ししましたが、うだ・アニマルパークにはさまざまな動物がいます。です、いる動物の10種類の特徴をカードにしています。そして、このゼッケンをつけて、それぞれがその動物になって、私は誰って当てっこをするんです、特徴を読み合って当てっこをするゲームなんですけれども。こういったゲームをした後に、うだ・アニマルパー

クでは実際の動物を見に行くことができるんです。それがすごいだ・アニマルパークのいいところだと思いますし、そこで、先ほど木下先生のお話にもありましたように、よい状態の動物を見せてあげることができるのが教育効果をさらに高めるのではないかと考えています。

【スライド 49】

これも先ほどのかるたとりをしています。

カードです。

これは俳句をつくるんです。牛さんと牛乳飲んでうまかったとかを組み合わせてかるたとりをしてつくるんですが、これが何か子供たちには非常にうけるんですが。それも子供たちはやった後に動物を見に行き、イッヒッヒって笑っているというような状態です。

こちらはいわゆるスタンプラリーなんです、こういう縫いぐるみをパークのあちこちにばあってばらまいておいて、ここに指令とかクイズとかが書いてあるので、それに答えながら、動物を観察しながら楽しむツールです。

これもスタンプラリーです。ただスタンプを集めるのではなく、クイズに答えながら、それから見つけたよ、気づいたよシートもつくりました。クイズだけではなく、その動物を見て何を感じたかを書いてもらうような仕組みにしています。【スライド 50】

続いて中高生のプログラムへ行きたいと思います。

ここでも、中高生向けに3つの狙いを決めました。小学生と違うことは、動物福祉について知ろうということ。社会の一員として自分にできることを考える。命を大切に社会を目指して、自分たちができることがあるんじゃないか。小学生では本当に直接動物に対してということだったんですが、中高生では社会にも目を向けてほしいと考えています。【スライド 51】

プログラムの構成は、当然、座学で私たちがいろんなことを伝えます。動物のニーズであるとか福祉について伝えます。そして、今、やっている検討中のプログラムでは、動物の処分の現状であるとかを、客観的な情報として奈良県の現状を伝えます。あなたたちが住んでいる社会にはそういうことが実際にあるんだよということを知ってもらいます。僕たちは犬を飼ってないから関係ないよとか、私はそんな飼い方をしないわということではなくて、あなたが暮らしている社会は今、そういうことなんだよ。そういう社会でいいの、それに対して何かできることはないのということを考えてもらう構成にしています。【スライド 51】【スライド 52】

そして、職場体験やインターンシップなどで、実際にうだ・アニマルパークの仕事を体験してもらうのをここに盛り込んでいます。ここでもキーワードは気づき、共感、責任です。先ほどのシンポジウムの中にも、出られた方は聞かれたかと思うんですけども、動物の置かれた現状だけではなくて、動物がそういう現状になるに至った飼い主の気持ちであるとか、周りの状況とかにも

目を向けてほしいな、共感してほしいなという思いもあります。【スライド 53】

中高生のプログラムですが、私たちは「いのちの教育」を提供し、その中で情報を提供、問題の提起、学びの場を提供します。学校側はカリキュラムへの導入やインターンシップへの参加、イベントへの参加などを促します。そして個々での取り組みもあります。こういった小さな歯車が回って、命を大切に奈良県という大きな歯車が回っていくのではないかと考えています。その結果、地域振興であったり、処分数が減少したり、動物と共生できる豊かな社会、優良な市民が生まれることによって、そういう豊かな社会ができていくのだと考えています。【スライド 54】

中高生のプログラムの様子です。まだこのときはこのマークができてなかったので手で書いてるんですが、中高生たちは飼育に必要なもの、動物が幸せに暮らすために必要なものをそれぞれ書いて、班ごとにポストイットに書いて、班で色分けをしてるので、それぞれの場所へ張っていきます。ああ何やこれ、共通やないかと。全ての動物に同じものが必要なんだな、動物種によってはこれも要るんだなということを気がついていきます。【スライド 55】

職場体験の様子です。これは体重測定です。体重測定をしたり、ウサギの小屋の世話をしたり、これはウサギの社会化のトレーニングをしてるんですけども、こんなふうにして近づくのよなんて教えながら。子犬に餌をやるときには、スタッフが小さくなって、違う、違う、こんなふうにならなきゃだめよと言ったりして、実際にどのように動物と取り組んでいくのかを学んでいきます。【スライド 56】【スライド 57】

ここまでが中高生のプログラムです。

私はここで1つ言いたいのは、こういった座学、いろんなツールを使っただけの「いのちの教育」をずっと御紹介してきましたが、実はもう一つの「いのちの教育」があると思っています。その材料は、私たち、うだ・アニマルパークで対処する動物、取り扱う動物への対処だと思っています。動物の収容から処分に至るまで、もちろん保管の状況でもですけども、その全てのステージにおいて、私たちが徹底した動物福祉を具現化して見せること。先ほど木下先生が、いつでも来てください、その場でお掃除をするんじゃないんですって、いつ来られても大丈夫なようにいつもちゃんとしてるんですっておっしゃってましたけど、まさにそうだと思います。ぜひ皆さんうだ・アニマルパークへ来てください。私たちは本当に、いつどなたがお見えになられても恥ずかしくない動物の管理を心がけています。【スライド 58】

私、いつも動物愛護センターの管理棟、処分を待っている動物たちを置いておく施設なんですけれども、そこへ御案内するんですが、そのときに施設の犬舎の前で、御案内した皆さんに深呼吸していただきって言うんです。皆さんにお願いします。そのときに、深呼吸できるでしょ

う、私たちの犬舎は深呼吸しても臭くないんですって、いつもきれいにしています。動物たちが、例えば処分する動物であっても、幸せに、その期間をいい状態で暮らせるようにという管理を心がけています。そういったことを社会に向けて発信していくことこそが、私は本当の「いのちの教育」ではないかなと思っています。

一方、社会の皆さんにさせていただきたいことは、こういう現実があるということ、動物の処分の数であるとか、それを取り巻く環境であるとか、そういうことを知ってください、気づいてください。そして、そういう状況に動物たちを置かなければならないということ、そして動物たちの命について共感してください。それから、最後に、正しい適切な行動をとってください。何が本当にこの社会において今、必要なことなのかを皆さんで考えてほしいなと思っています。【スライド 59】

命を大切に豊かな社会は、命を大切にするとその人がつくる仕組みによってできあがるのだと思っています。奈良県が掲げております動物と楽しく暮らせるみんなの町は、まさにこの人がつくっていくわけです。ですので、私たちはこのプログラムを通じて、この大きな目標に向かって進んでいきたいと思っています。【スライド 60】【スライド 61】

済みません、至らない話で。御清聴ありがとうございました。

○天ヶ瀬正博 ありがとうございます。

とりあえず今の時点で御質問のおありの方、おられませんでしょうか。

済みません。また司会者から確認をさせていただきます。

張り子を使った形でプログラムをなさっておられるんですが、その後に施設の見学に行き動物を直接観察してもらおうということをしているわけですね。

○藤井敬子 多くの学校が遠足も兼ねて来られます。プログラムは3つあると言ったんですけども、その3時間のうちお約束事項で2時間は出前に行きますよと。こちらから全てのツールを持って出前に行き授業を行います。でも、1時間だけはどうぞうだ・アニマルパークに来てくださいねという仕組みにしています。

ですので、その後子供たちは、実際の動物と触れ合いに行ったりします。そのときに、先ほどの木下先生のお話にもあったように、どうやってさわるのよということはおあらかじめレクチャーした上で、子供たちはつながりを考えながら動物と触れ合うことになっています。

○天ヶ瀬正博 済みません。最初のうだ・アニマルパークの全地図をもう一度、可能でしたらお願いしたいんですが。

○藤井敬子 ごめんなさい、先生、だめだ。あっちを見てください。済みません。

○天ヶ瀬正博 これをどういうふうに子供たちに回ってもらうのでしょうか。

○藤井敬子 子供たちは、ここにちょっとちっちゃいで

すけど、ウサギの絵が描いてあるのがわかるでしょうか。動物がいるゾーンはここになっているんです。学習館というのがここにあって、ここで学習をするんですが。その後、こちらの動物のいる公園ゾーンのほうへ動いて観察をします。そのときに、先ほどのスタンプラリーのスタンプカードなんかを持ってここら辺をぐるぐる回って、また帰ってくる形になります。

○天ヶ瀬正博 だから張り子を使ったプログラムの後に、気づき、共感と、その後でこういう形で観察することになってるわけですね。

気づき、共感のところ、特にあと5つの自由とございましたけども、説明は省略されたようですので、少しだけちょっと5つの自由についてお話ししたいと思うのですが。

○藤井敬子 動物と私たちとの約束のところ、動物のニーズについて考えるわけなんですけど、ここでもこのマークを、高学年なのでマークだけしか出さないんです。これは5つの自由というんだよとか、動物の福祉というのはねという改めでの説明はせずに、子供たちが、例えば犬が幸せに暮らすために何が必要って言ったときに、散歩が必要だよとか、水が必要だよって言ったものを区別して、整理をしていくのに使うということです。わかりますか。

○天ヶ瀬正博 はい。最終的にはそれが高学年、高校プログラム等になってきますとアニマルライツ、動物の権利と私たちの責任という形につながっていくということですね。

○藤井敬子 動物の福祉と責任につなげていきます。

○天ヶ瀬正博 ありがとうございます。

それから、参加クラス単位は、小学校とか高校とか、どのぐらいの人数でしょうか。

○藤井敬子 小学校は学年単位で来られます。しかし、授業は学年単位ではないです。全てクラス単位です。そうしないと理解度が下がってしまうので、クラス単位です。

高校は、近くにある高校が何とか学科という、そこに特化した学校が1つ、2つありまして、その学生さんがまとまって職場体験に来られることがあったりとか、中学生が職場体験で、三、四人の単位なんですけれども、そういう形で来られることがあります。そのときにレクチャーや授業をさせてもらった後、職場体験に入っていただく仕組みにしています。

○天ヶ瀬正博 実際のプログラムは比較的少人数でということになりますね。

○藤井敬子 そうですね。中・高は特にです。高校生は、1つの学校については40人という単位ですけれども、ほかは大抵少人数、10人までの単位だと思います。

○天ヶ瀬正博 ありがとうございます。

続けてご発表いただいて、そして、休憩の後で討論と申し上げたのですが、クーラーが効き過ぎて寒い方もおられるようですので、ここで5分ほど休憩させていた

だいて、あと事例報告という形で、和歌山県から発表させていただきます。

奈良県いのちの教育 子どもたちへ「いのち」を伝える試み



奈良県葛城保健所
獣医師 藤井 敬子



【スライド 01】

本日のお話

- 日本的な動物福祉教育の提案
 - ・経緯
 - ・日本的な動物福祉教育とは・・・
- 奈良県「いのちの教育」
 - ・小学生プログラム
 - ・中高生プログラム
- もう一つの「いのちの教育」



【スライド 02】



【スライド 03】

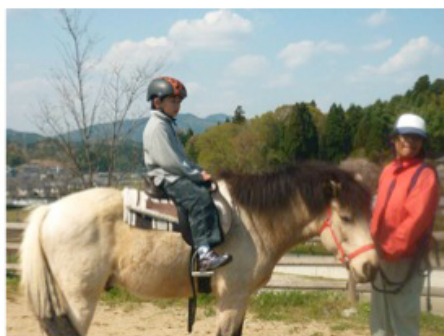
うだ・アニマルパークの役割

♪遊ぶ。学ぶ。ふれあう。♪♪

【動物とのかかわりを入りに

あらゆるいのちに共感し、

いのちを大切にする心を育む】



「動物について学ぶ」

「動物から学ぶ」

「動物のために学ぶ」

【スライド 04】

うだ・アニマルパークの役割

- 動物とのふれあい
- 動物の正しい取扱い
- 動物の適正飼育の普及啓発
を通じて



人と動物との関わり、人と動物とのいのちが同じであること。関わる動物に対しての人の責任と、その果たし方を知らせる。

【スライド 05】



【スライド 06】



【スライド 07】

施設概要

敷地面積：公園部門8.2ha 動物愛護センター 1.7ha

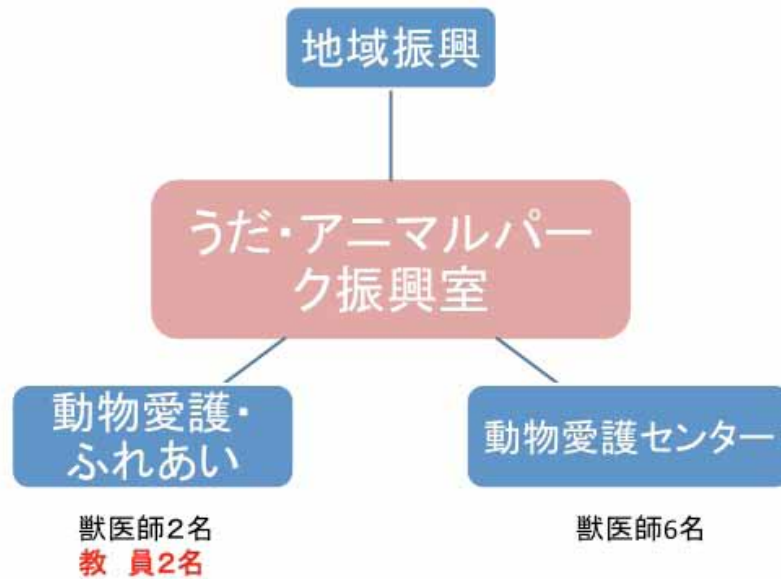
動物学習館(1棟982.8m²) 動物舎(3棟 582.59m²)

飼育動物	乳牛	2頭	うさぎ	22頭
	ポニー	3頭	ブタ	3頭
	ヤギ	24頭	鶏	15羽
	羊	25頭	モルモット	7頭
	あひる	1羽	七面鳥	2羽



【スライド 08】

組織概要



【スライド 09】

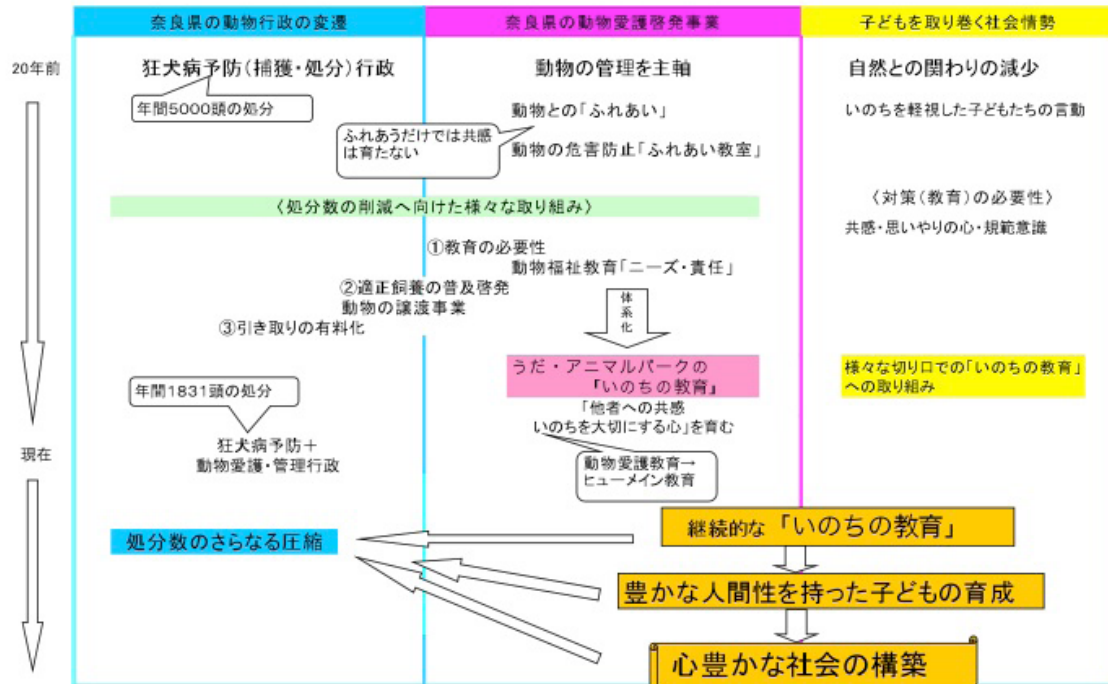
「うだ・アニマルパーク」の課題

- 課題1. 「いのちの教育」を実施せよ。
- 課題2. 動物の処分数を減少させよ。
- 課題3. パークを拠点とした地域振興をせよ。

【スライド 10】

【背景】

日本的な動物福祉教育の提案



【スライド 11】

日本的な動物福祉教育の提案

動物行政の変遷

1990年代

狂犬病予防(捕獲・処分)行政

年間5,000頭超の処分

1999年 改正動愛法施行

動物の愛護・管理行政

動物の譲渡事業
 引取りの有料化

2010年代

不必要な処分ゼロへ向けた取組



【スライド 12】

子どもを取り巻く社会情勢

1990年代

- 自然との関わりの減少
- いのちを軽視した子どもたちの言動



対策(教育)の必要性

【共感・思いやりの心・規範意識の醸成】



様々な切り口での「いのちの教育」



【スライド 13】

動物愛護啓発事業の変遷(奈良県)

1990年代

動物との「ふれあい」を中心とした活動



動物からの危害防止を目的とした
「ふれあい教室」

ふれあうだけでは共感は育たない

2010年代

動物福祉教育

動物のニーズと人の責任



【スライド 14】

動物愛護啓発事業の変遷(奈良県)



【スライド 15】

動物愛護啓発事業の変遷(奈良県)



【スライド 16】

これまでの動物愛護教育(動物への対処)

中心に置かれていたこと・・・	置き去りにされていたこと・・・
【愛護】:かわいがり保護すること。	【福祉】:よりよく生きること
情緒的で日本的な考え方 「いのちはみな同じ」 「生きていることが重要」	客観的・科学的な根拠のある考え方 「動物の幸福」



【スライド 17】

提案

日本的小動物福祉教育

子どもたちに伝えたいこと

- 動物との関わり
- いのちへの共感
- 関わる動物への責任



(いのちを大切にすゝる心と態度の育成)
(動物福祉に基づいた終生にわたる適正飼養)

【スライド 18】

奈良県「いのちの教育」

「いのちの教育」とは・・・

【定義】あらゆる「いのち」に共感し「いのち」を大切に
する心を育む教育



【スライド 19】

奈良県いのちの教育

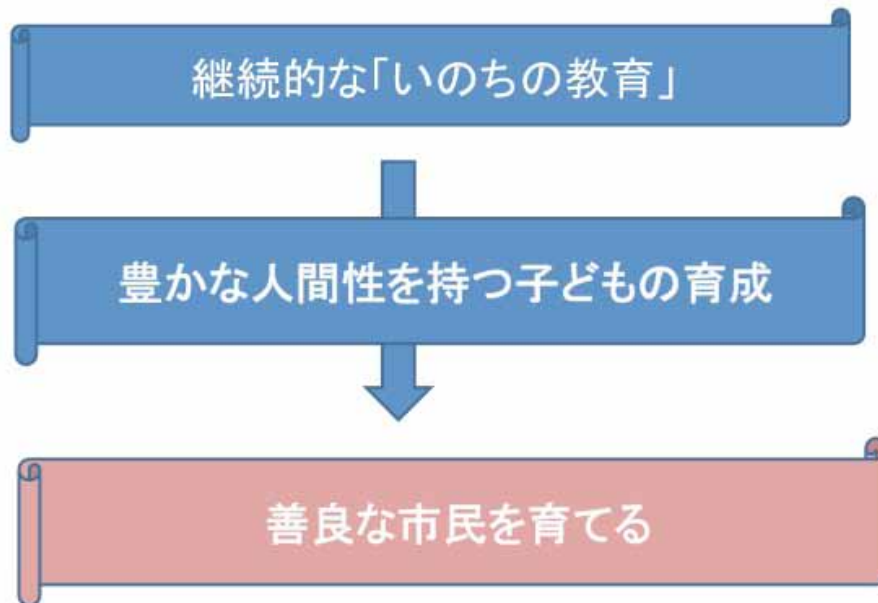
ねらい

- ① 動物と人とのつながりを知ることで、生命尊重の心や社会の一員としての責任感を育成する。
- ② 「いのち」の大切さを実感することで、他者に対する思いやりや自尊心を養う。
- ③ 活動を通して、社会規範の意識を高め、情操を豊かにする。



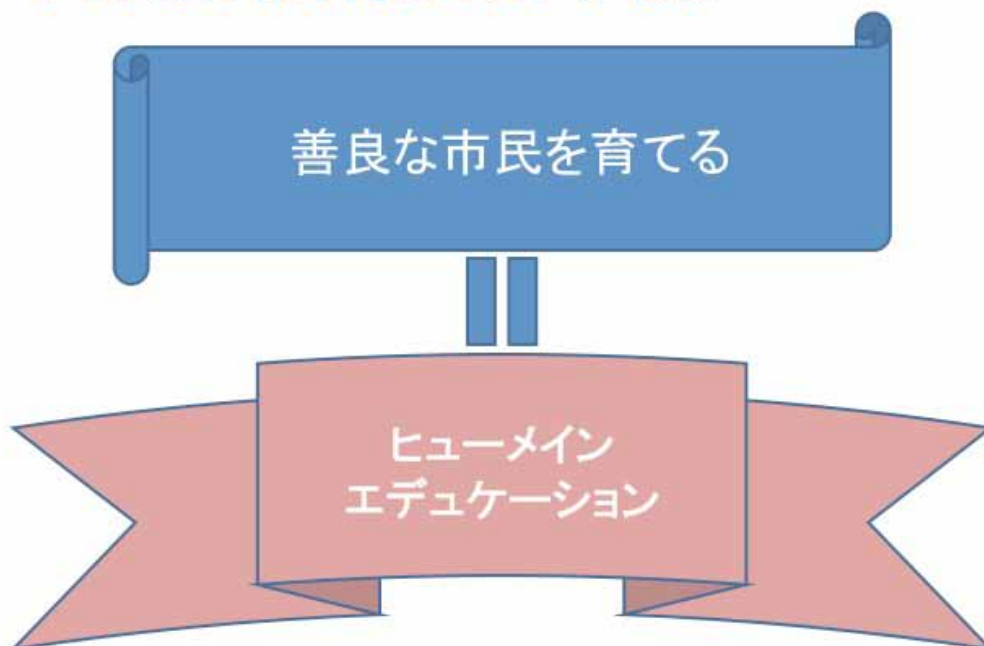
【スライド 20】

「いのちの教育」がめざすもの



【スライド 21】

「いのちの教育」がめざすもの



【スライド 22】

ヒューメインエデュケーション としての位置付け

入り口は動物

「いのち」を考える教育

動物に対し・他者に対し
適切な行動を取れる人づくり



【スライド 23】

プログラムの概要

- 小学生プログラム(はりこー低学年向け)
- 小学生プログラム(はりこー高学年向け)
- 小学生プログラム(学習シート・ワークショップなど)
- 中高生プログラム(検討中)
- 生涯学習プログラム(未定)



【スライド 24】

小学生プログラム ーはりこのプログラムの概要

★キーワード:『気づき』・『共感』・『責任』



【スライド 25】

ねらい

- ① 動物に対する思いやりを深め「いのちの大切さ」を実感させる。
- ② 他者との関わりを深めながら情操を豊かにする。
- ③ 野生動物を含む自然環境の保護についての理解を深める。



【スライド 26】

小学生プログラム(低学年) ーはりこのプログラムの概要

プログラムⅠ：『私たちと動物との関わり』

人が関わっている動物たちに気づく



関心を持つ・考える



【スライド 27】

プログラムⅠ：『私たちと動物との関わり』



【スライド 28】

プログラムⅠ：『私たちと動物との関わり』



【スライド 29】

小学生プログラム(低学年) ーはりこのプログラムの概要

プログラムⅡ：『動物と私たちの 「いのち」は同じ』

他者へ共感する

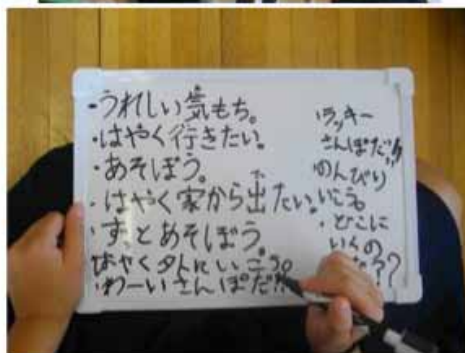


動物の「気持ち」と「ニーズ」を考える



【スライド 30】

プログラムⅡ：『動物と私たちの 「いのち」は同じ』



【スライド 31】

プログラムⅡ：『動物と私たちの 「いのち」は同じ』



【スライド 32】

小学生プログラム(低学年) ーはりこのプログラムの概要

プログラムⅢ:『動物のために 私たちができること』

ずっと一緒だよ!

人が果たす責任を考える



ニーズに応える
福祉の担保



【スライド 33】

プログラムⅢ:『動物のために 私たちができること』



【スライド 34】

プログラムⅢ：『動物のために 私たちができること』



【スライド 35】

プログラムⅢ：『動物のために 私たちができること』



【スライド 36】

評価

記述式アンケート
により、理解度・
共感度を測る。

ともだちだいすき みんなだいすき
アンケート

()年 ()月 ()日

1. 人間は、どうぶつがいなくても生きていけますか？
そのわけを下の [] に、書きましょう。 はい ・ わからない ・ いいえ

2. どうぶつとおもちゃは同じですか？
そのわけを下の [] に、書きましょう。 はい ・ わからない ・ いいえ

3. どうぶつにはしたいことがあると思いますか？
「はい」の人は、下の [] に、それはどんなことを書きましょう。 はい ・ わからない ・ いいえ

4. あなたが、どうぶつのために何かできることがあると思いますか？
「はい」の人は、下の [] に、それはどんなことを書きましょう。 はい ・ わからない ・ いいえ

【いのちの教育プログラム】うた・アニメルパーク



【スライド 37】

評価

アンケート集計 (事前 1159 名、事後 1146 名)

Q1:人間は、どうぶつがいなくても生きていけますか？ (適正な回答)

	事前(人)	事後(人)
アンケート回答者数	1159	1146
はい	298	189
わからない	202	94
いいえ	659	863
適正な回答率(%)	56.9%	75.3%

	事前		事後	
	累計(個)	全回答一人あたりの 出現率(%)	累計(個)	全回答一人あたりの 出現率(%)
適切なキーワードの出現数	509	0.44	957	0.84

Q2:どうぶつとおもちゃは同じですか？

	事前(人)	事後(人)
アンケート回答者数	1159	1146
はい	58	25
わからない	100	57
いいえ	1001	1064
適正な回答率(%)	86.4%	92.8%

	事前		事後	
	累計(個)	全回答一人あたりの 出現率(%)	累計(個)	全回答一人あたりの 出現率(%)
適切なキーワードの出現数	574	0.50	875	0.76

Q3:どうぶつには、したいことがあると思いますか？

	事前(人)	事後(人)
アンケート回答者数	1159	1146
はい	755	978
わからない	309	145
いいえ	95	23
適正な回答率(%)	65.1%	85.3%

	事前		事後	
	累計(個)	全回答一人あたりの 出現率(%)	累計(個)	全回答一人あたりの 出現率(%)
適切なキーワードの出現数	504	0.43	1206	1.05

Q4:あなたは、どうぶつのためにできることがあると思いますか？

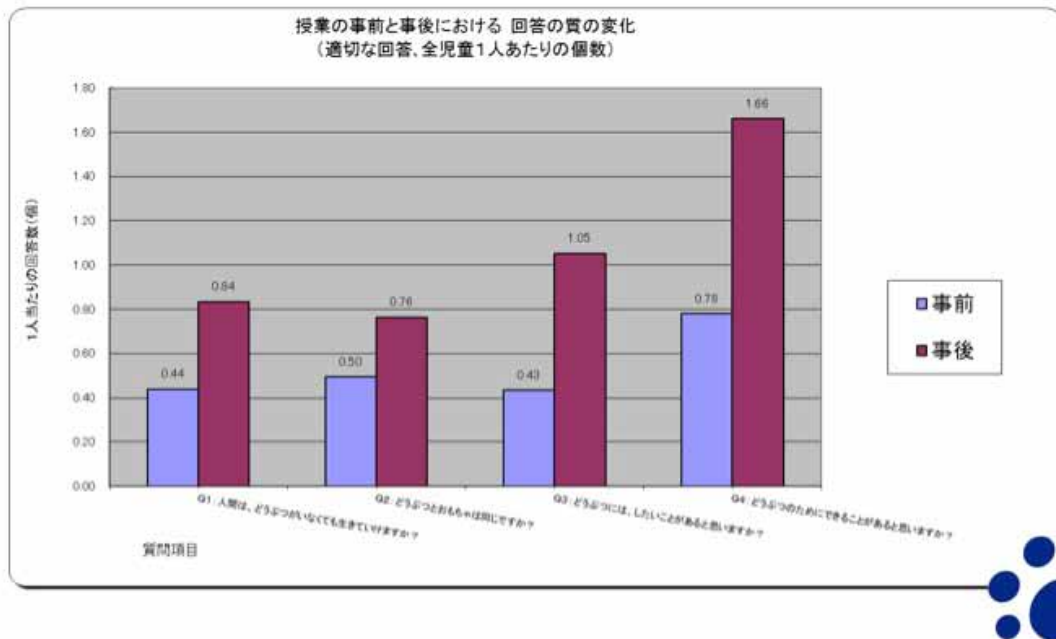
	事前(人)	事後(人)
アンケート回答者数	1159	1146
はい	787	998
わからない	276	118
いいえ	96	30
適正な回答率(%)	67.9%	87.1%

	事前		事後	
	累計(個)	全回答一人あたりの 出現率(%)	累計(個)	全回答一人あたりの 出現率(%)
適切なキーワードの出現数	904	0.78	1903	1.66



【スライド 38】

評価



【スライド 39】

期待できる効果



【スライド 40】

「いのちの教育」小学生プログラムでは...

- STEP 1 ➡ 動物への気づき
- STEP 2 ➡ 動物の理解
- STEP 3 ➡ 動物のニーズ
- STEP 4 ➡ 動物への人間の責任



を、順を追って学習する。



【スライド 41】

小学生プログラムーはりこ(高学年)



高学年では低学年向けのはりこのミニチュアサイズを使用し、プログラムは低学年での3パートを2パートに圧縮して実施する。



【スライド 42】

小学生プログラム—教育ツール



様々な教育ツールを用いて、楽しみながら動物について関心を高め学びを深める。

ワークショップ参加者にはゼッケンを着用させ、楽しさの中に、適正飼養の啓発を行っている。



【スライド 43】

小学生プログラム—教育ツール



10種類の学習シートを使って、ペットを飼うために必要な知識と責任について学ぶ。



【スライド 44】

小学生プログラム—教育ツール



【スライド 45】

小学生プログラム—教育ツール



【スライド 46】

小学生プログラムー教育ツール



ゴミ箱のなかみ

ワシだふる博士の学習シート (No. 2)

引出し読み進めたいところから読み始めよう。じっくり読んでみよう。みんなは、自分達のゴミ箱の中身を知っていますか？
ゴミ箱の中身を知ると、いざという時にも役に立ちます。

ゴミ箱の中には、平気なペットや鳥の糞、紙くず、生かすのペット、紙、生かすのペットなどいろいろなものが入っています。この中に、何か動物に有害なものがあるかもしれません。

例えば、紙のからやパルプ、牛乳のパッケージは、動物にとって、どんな動物と関係しているのでしょうか？紙くずや、ペットは動物に全く関係ないのでしょうか？

このゴミ箱の絵を見て、書き換えや関係しているものを描きつけ、動物とゴミの関係を考えてみましょう。

関係する動物	気がついたこと
(例) 鳥の糞	(例) 鶏やシマリスを食った

【お話し】
動物の糞は動物にとって有害な場合があります。動物の糞は動物にとって有害な場合があります。動物の糞は動物にとって有害な場合があります。

動物園地球環境部 動物園センター
〒832-0112 奈良県宇陀市宇陀山崎100
電話：0746-82-2633 FAX：0746-82-2633

動物園センター

動物園センター

【スライド 47】

小学生プログラムー教育ツール



【スライド 48】

小学生プログラムー教育ツール



【スライド 49】

小学生プログラムー教育ツール



【スライド 50】

中高生へのプログラム

ねらい

- 人と動物との関わりや、動物福祉について知る。
- 動物に果たす人間の責任について知り、考える。
- いのちを大切にできる社会をめざして、社会の一員として自分にできることを考える。



【スライド 51】

中高生へのプログラム

構成

- ① 動物との関わり、動物のニーズを伝える。
- ② 客観的な情報を提供し、自分たちの社会と動物との関わりを知り、考え、行動することを促す。
- ③ 職場体験・インターンシップで実体験する。



【スライド 52】

中高生へのプログラム

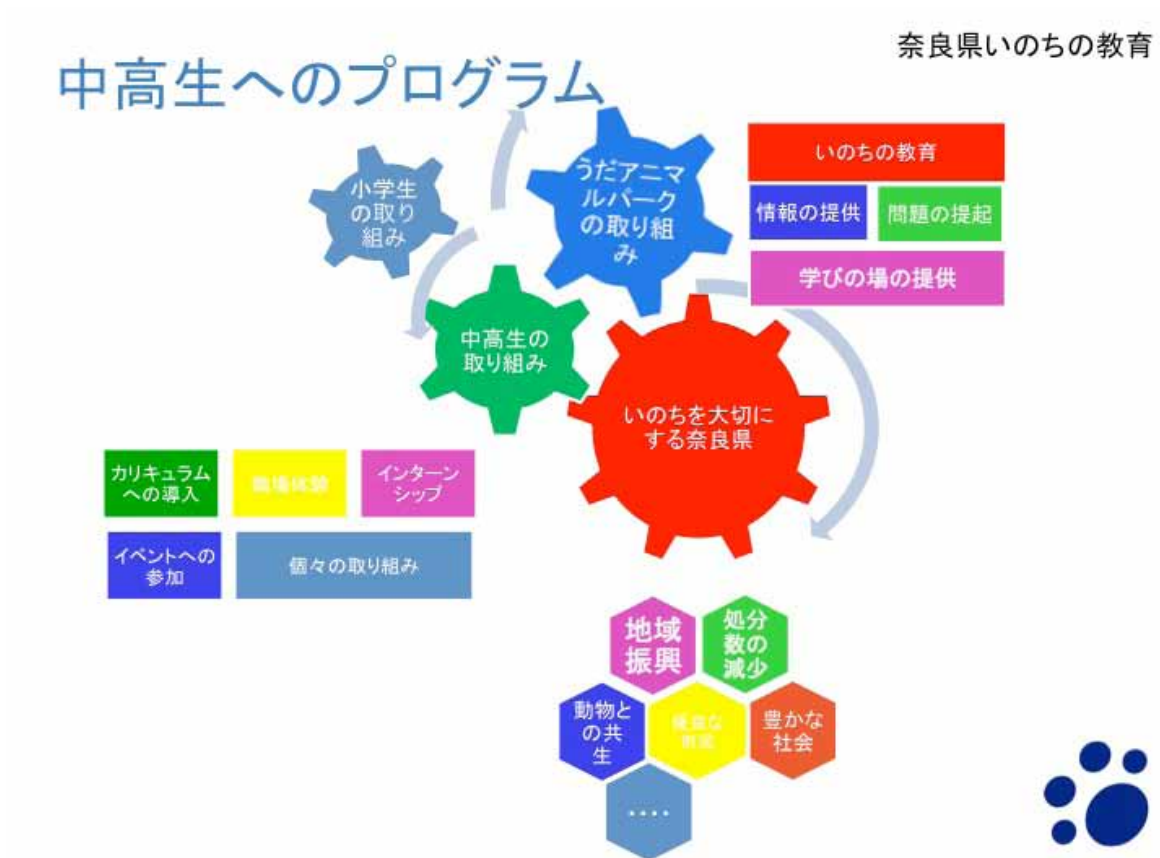
【気づき】： 動物との関わりと、現状に気づく

【共 感】： 動物のいのちと現状に共感する

【責 任】： 自分(個)が果たす責任
社会が果たす責任



【スライド 53】



【スライド 54】

中高生へのプログラム



【スライド 55】

中高生へのプログラム



【スライド 56】

中高生へのプログラム



【スライド 57】

もう一つの「いのちの教育」

教育(啓発)の材料は・・・

取り扱う動物の収容・保管・処分に至るまで



徹底した“動物福祉の具現化”

「いのち」に真摯に向き合う姿勢を社会に示す



【スライド 58】

社会での取組

“みなさんにできること”



【スライド 59】

まとめ

動物のいのちを大切にするとしくみ



動物と楽しく暮らせる
みんなの街



【スライド 60】

まとめ

「うだ・アニマルパーク」の挑戦

課題1. プログラムの検討

→「いのちの教育」の実施

課題2. 動物への適正な対処→適正飼養の普及

→処分数の減少

課題3. 「いのちの教育」の学びの場の提供

→地域振興

【スライド61】